

介護DXの 推進骨子

松山市 福祉推進部
令和6年8月

介護を取り巻く状況 総論

高齢化の進展 (2040年問題)

- ・ 団塊ジュニアが高齢者になる2040年には、要介護(要支援)認定者数はピークに！(988万人)
【松山市の高齢化率】 2024年:29.1% ⇒ 2040年:35.6%



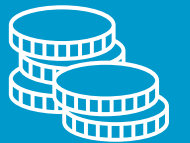
介護人材の不足

- ・ 2040年には、介護職員が約280万人必要と試算され、約69万人が不足



その他

- ・ 社会保障の財源不足、老老介護・認認介護など



市長公約（令和4年11月）

柱 4 安全・安心で持続可能なまちづくり

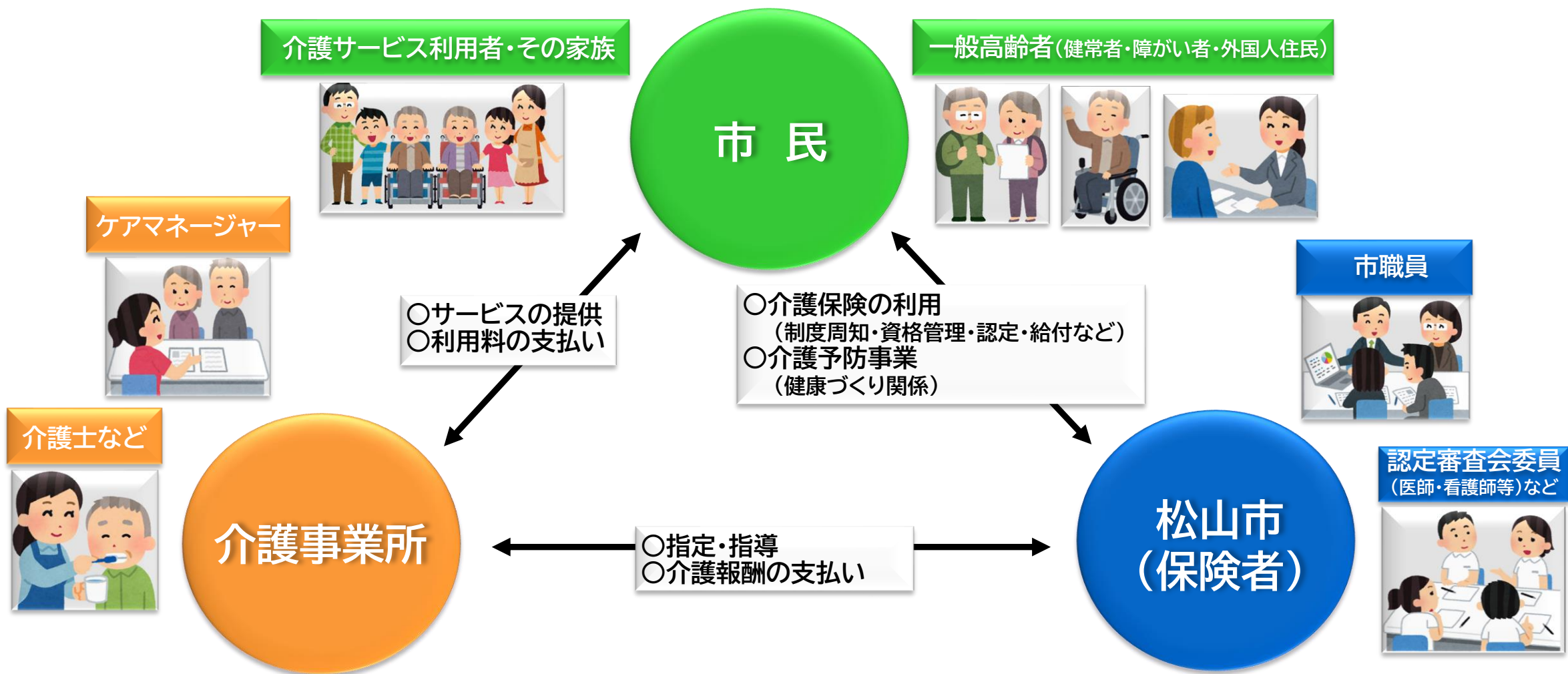
7 農業、介護などDXを推し進め、暮らしを便利にします。



介護分野の課題解決の手段としてDXを活用し、市長公約の実現を目指します。

介護DXの推進対象（イメージ）

主には、「介護予防」・「介護サービス利用」に関する人を対象とします。



介護DXは、それぞれの対象に適した「3つの分野」を推進します。



介護DXの推進で「元気で健康な暮らし」の実現や、
「働きやすさ」「サービスの質」を高め
「笑顔」の輪を広げます！

-----【背景】-----

-----【課題】-----

-----【分野】-----



高齢化の急速な進展

- 団塊の世代・団塊ジュニアの高齢化
- 要介護(要支援)認定者の増
- 介護ニーズの増



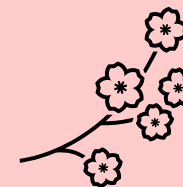
介護給付費増

01

介護予防

【DX推進のテーマ】

健康寿命の延伸



【背景】

【課題】

【分野】

少子・高齢化

- 生産年齢人口の減少



介護現場の疲弊

- 高齢化に伴う介護ニーズの増
- 介護業務の負担増
- 離職率の増



介護人材の
不足

02

介護サービス

【DX推進のテーマ】

働きやすさの向上



----- **【背景】** -----

----- **【課題】** -----

----- **【分野】** ----->

高齢化に伴う
要介護認定申請件数
の増

- 介護ニーズの増



社会の多様化

- 外国人住民などの増



事務量・コスト
処理期間の増
(認定(更新)申請
～結果通知)の遅延



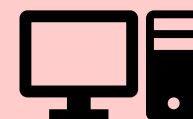
きめ細かな
制度の周知

03

事務・手続き

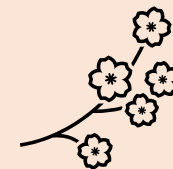
【DX推進のテーマ】

市民サービスの
向上



健康寿命の延伸

◇高齢者が、いきいきとした人生を送ることができるよう、「介護予防」と「健康づくり」の推進に取り組む



健康増進 認知症予防

主な取組み

導入効果

目標(状況)



①高齢者いきいきチャレンジ事業

- ・スマートフォンを使った健康アプリ導入
- ・健康アプリ相談窓口

➡外出機会の創出

- ・健康増進、認知症予防
- ・高齢者へのDXの推進

★アプリ登録者の拡大

(R6年度)登録目標: 2,000人



②デジタルによる 地域活動への支援

- ・健康アプリ・スマホ教室の実施
- ・高齢者への情報発信にDXを活用

➡生きがい・健康づくり

- ・サロンでの活動メニューの追加
- ・DXによる世話人の負担軽減

★「通いの場」の創出

(R6年度)実施: 12回



働きやすさの向上

◇労働環境を改善し、「より少ない人手で回る介護現場」の実現に取り組む



効率化
負担軽減

主な取組み

導入効果

目標(状況)

①介護DXの普及・促進(体験会等)

- ・介護ロボット・ICT機器等
- ・ケアプランデータ連携システム
- ・AIケアプラン など

➡職場環境の改善

- ・サービス事務効率化・負担の軽減
- ・サービスの質の向上
- ・介護人材の確保

★説明・体験会の開催

(R6年度)介護ロボット等:2回
ケアプランデータ連携システム:1回
AIケアプラン:1回

★モデル事業の実施(データ連携)

(R7年度~)ライセンス料の支援

★国等への要望

(R6年度~)介護DXに係る財政措置

②介護DXプラットフォームの開設・活用

- ・イベント等、各種情報発信
- ・補助金申請・相談窓口等の案内

➡利便性の向上

- ・介護DX関連情報の一元化
- ・導入機運の醸成

★効果的な情報発信

(R6年度~)4月開設・7月先行事例募集
~随時情報発信

③アンケート調査

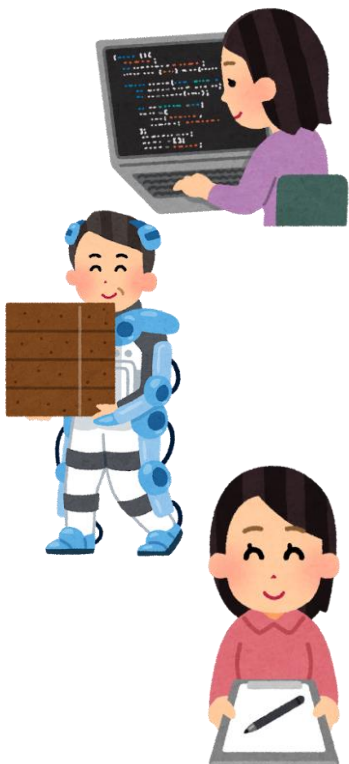
- ・規模別に課題やニーズを調査

➡課題等の把握・事業展開

- ・効果的な事業展開

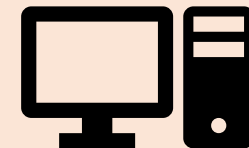
★調査の実施

(R6年度)9月実施【予定】
※今後の取組につなげる



市民サービスの向上

- ◇訪問調査や、認定審査会等、要介護認定手続きの効率化、迅速化に取り組む
- ◇外国人住民などに配慮した、介護保険制度の周知に取り組む



効率化
負担軽減

主な取組み

導入効果

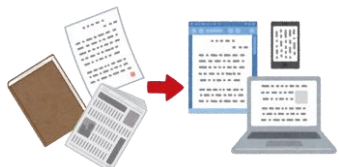
目標(状況)



①訪問調査のデジタル化
・介護保険システムと連携

➡負担軽減・事務の効率化
・調査員等の負担軽減

★本稼働(R9.4月予定)
(R6年6月) デモ操作体験
(R8年度) 機器調達・試行
(R9年度) 本稼働



②認定審査会の
オンライン化・ペーパーレス化

➡負担軽減・事務の効率化
・審査会委員等の負担軽減
・ペーパーレス

★本稼働(R8.2月予定)
(R6年4月) オンライン化【一部】
(R6年5月) デモ操作体験
(R7年度) 機器調達・試行～本稼働



③パンフレットのデジタル化
・二次元コードの記載
(多言語対応・自動音声読み上げ)

➡介護保険制度の
きめ細かな周知

★二次元コード付き
パンフレット(簡易版)の作成
(R7年度) 2,000部【予定】

取組内容等（まとめ）

01 介護予防 健康寿命の延伸

高齢者いきいきチャレンジ事業

- アプリ登録者の拡大

デジタルによる地域活動への支援

- 通いの場の創出

02 介護サービス 働きやすさの向上

介護DXの 普及・促進（体験会等）

- 説明・体験会の開催（R6～）
・ケアプランデータ連携システム
・介護ロボット・介護ソフト 等
- モデル事業の実施（R7～予定）
- 国等への要望（R6～）

介護DX プラットフォームの活用

- 効果的な情報発信（R6～）

アンケート調査

- 課題・ニーズの把握（R6）

03 事務・手続き 市民サービスの向上

訪問調査のデジタル化

- 訪問調査のデジタル化
- 介護保険システムとの連携
→本稼働（R9.4予定）

認定審査会資料の オンライン化・ペーパーレス化

- 認定審査会のオンライン開催
- 審査会資料のペーパーレス化
→本稼働（R8.2予定）

パンフレットの デジタル化

- 二次元コード付きパンフレット
【簡易版】の作成（R7予定）